

### (3) 下水道施設を活用した新エネルギー対策の推進 ～ 新世代下水道支援事業制度の拡充～

#### 1. 背景・目的

地球温暖化問題への対応が世界的な重要課題となる中、我が国としても地球環境と共存する低炭素社会の構築が求められている。

下水道は、下水や下水汚泥の処理過程において多量のエネルギーを消費、温室効果ガスを排出しており、処理の高度化の推進等により、エネルギー消費量は今後も増大する傾向にある。このため、平成19年度末に閣議決定された京都議定書目標達成計画において、下水道における省エネルギー・新エネルギー対策の推進による温室効果ガスの削減が追加対策として盛り込まれており、この目標を実現し、下水道として地球温暖化対策に貢献する必要がある。

以上を踏まえ、温室効果ガスの排出削減のため、省エネルギー対策、下水汚泥の高温焼却のみならず太陽光発電や風力発電等新エネルギー対策を支援するものである。

#### 2. 概要

新世代下水道支援事業制度において、リサイクル推進事業を拡充し、以下の施策を実施する。

##### (1) 計画策定

各下水道管理者が温室効果ガス削減対策を推進するため策定する「下水道地球温暖化対策行動計画」(仮称)の策定を支援する。

##### (2) 新エネルギー対策の推進

当該計画に位置付けられた下水道施設の敷地を利用した太陽光、風力、小水力による発電施設の建設を支援する。

